

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 商業販売統計(2010年1月)

発表日2010年2月26日(金)

～予想を上回る高い伸びだが、単月の振れの可能性大～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL : 03-5221-4528

(単位: %)

		商業販売額										コンビニ販売額		
		卸売業				小売業		大型小売店			百貨店	スーパー	前年比	既存店 前年比
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店 前年比	既存店 前年比				
08	1月	3.7	0.6	4.5	0.7	1.3	0.5	▲0.9	▲2.1	▲2.1	▲2.1	0.1	▲1.6	
	2月	5.6	▲0.2	6.3	▲0.3	3.2	▲0.3	2.6	1.2	0.9	1.4	3.4	0.8	
	3月	1.5	▲1.1	1.7	▲1.7	1.0	0.1	1.7	0.2	▲1.2	1.3	1.2	▲0.6	
	4月	4.3	3.0	5.6	4.2	0.1	0.0	▲0.7	▲2.2	▲3.4	▲1.4	1.4	▲0.2	
	5月	3.8	1.7	4.8	2.2	0.3	▲0.3	▲0.6	▲2.0	▲2.5	▲1.7	5.1	3.5	
	6月	4.0	▲0.4	5.0	▲0.5	0.3	0.1	▲2.7	▲4.0	▲7.3	▲1.7	5.7	4.0	
	7月	9.0	3.3	11.0	3.9	2.0	0.2	0.2	▲0.7	▲2.3	0.5	13.3	11.5	
	8月	2.9	▲3.3	3.5	▲4.1	0.7	0.2	▲1.0	▲2.2	▲2.9	▲1.8	6.7	5.1	
	9月	3.3	▲2.8	4.2	▲3.5	▲0.3	0.0	▲2.1	▲3.3	▲4.6	▲2.6	7.5	6.4	
	10月	▲1.1	▲1.6	▲1.2	▲1.5	▲0.7	▲0.6	▲2.9	▲4.3	▲6.9	▲2.6	9.8	7.9	
	11月	▲8.6	▲4.8	▲10.7	▲6.3	▲0.9	▲0.2	▲1.7	▲3.1	▲6.3	▲0.7	9.1	7.2	
	12月	▲11.2	▲6.7	▲13.8	▲8.5	▲2.7	▲1.7	▲4.8	▲6.2	▲9.6	▲3.6	7.8	5.8	
09	1月	▲15.5	▲2.5	▲19.5	▲3.6	▲2.4	▲0.1	▲3.8	▲5.5	▲9.2	▲3.1	8.8	6.8	
	2月	▲21.5	▲4.6	▲25.7	▲5.4	▲5.7	▲0.2	▲6.5	▲8.1	▲11.4	▲6.1	4.0	2.0	
	3月	▲24.0	▲8.5	▲29.2	▲10.8	▲3.8	▲1.0	▲6.7	▲8.2	▲12.9	▲4.9	6.1	3.9	
	4月	▲22.4	5.9	▲27.8	7.5	▲2.8	0.7	▲5.0	▲6.7	▲11.3	▲4.0	6.5	4.0	
	5月	▲24.3	0.8	▲30.4	0.4	▲2.7	0.1	▲4.5	▲6.5	▲12.1	▲3.0	3.1	0.8	
	6月	▲23.3	▲1.4	▲28.7	▲1.1	▲2.9	▲0.2	▲5.2	▲6.8	▲9.1	▲5.4	0.9	▲1.7	
	7月	▲24.0	3.1	▲29.8	3.4	▲2.4	0.5	▲7.0	▲8.4	▲11.8	▲6.1	▲5.1	▲7.5	
	8月	▲22.4	▲1.2	▲28.0	▲1.6	▲1.8	1.0	▲5.0	▲6.8	▲8.9	▲5.7	▲3.0	▲5.6	
	9月	▲22.0	▲1.4	▲27.1	▲1.7	▲1.3	0.9	▲4.2	▲5.6	▲7.8	▲4.3	▲2.4	▲5.7	
	10月	▲19.2	1.9	▲24.2	2.7	▲1.0	▲0.9	▲6.3	▲7.2	▲10.6	▲5.2	▲2.9	▲5.6	
	11月	▲14.6	▲0.9	▲18.7	▲1.5	▲1.1	0.0	▲9.0	▲9.7	▲11.8	▲8.3	▲3.6	▲6.4	
	12月	▲10.9	▲2.0	▲14.6	▲2.6	▲0.2	▲1.1	▲4.1	▲4.6	▲5.0	▲4.3	▲2.8	▲5.7	
10	1月	▲3.8	5.3	▲6.2	5.8	2.6	2.9	▲5.0	▲5.6	▲5.7	▲5.5	▲2.5	▲5.5	

(出所) 経済産業省「商業販売統計」

○ 予想を大きく上回るが・・・

経済産業省から本日公表された10年1月の小売業販売額は前年比+2.6%となり、事前の市場予想(前年比▲0.2%)を大幅に上回った。前年比での増加は08年8月以来である。季節調整値でも前月比+2.9%と大幅な増加となっており、予想外に強い結果だった。内訳を見ると、飲食料品小売業が前月比+4.0%(寄与度+1.2%)、自動車小売業が同+4.7%(寄与度+0.6%)、機械器具小売業が同+7.3%(寄与度+0.4%)、各種商品小売業が同+1.6%(寄与度+0.2%)、織物・衣服・身の回り品小売業が同+0.7%(寄与度+0.1%)など、軒並み大幅に増加している。

もともと、他の関連統計を見る限り、実際の1月の財消費がここまでの増加を示したとは考えにくく、実態よりも上振れている可能性が高いだろう。特に飲食料品小売業と機械器具小売業については増加幅が大きく、サンプル要因による振れが疑われる。季節調整の問題が影響している可能性もあるだろう。

先に公表されている業界統計からは、政策効果の影響から自動車や薄型テレビの販売が引き続き好調だったことや、衣料品に動きがあったことなどが示されていることに加え、1月の景気ウォッチャー調査では家計動向関連DIが上昇するといった動きがみられており、1月の財消費が底堅い動きだったこと自体は確かなのだろうが、本日の小売業販売額の増加幅はさすがに行き過ぎである。個人消費を財の出荷動向から把握

でき、カバレッジも広い消費財出荷指数が1月は前月比▲2.1%と減少していることも踏まえると、1月の小売業販売額は実態よりも上振れていると考えられ、2月以降に反動減が出る可能性があるだろう。

①政策効果の限界的な押し上げ効果は今後弱まってくる可能性が高いこと、②消費者マインドの改善が頭打ちになっていること、③雇用所得環境が引き続き厳しいことなど、個人消費を取り巻く環境は厳しい。個人消費は、09年4-6月期から10-12月期までにかけて、政策効果に押し上げられる形で高い伸びを示したが、10年1-3月期以降は減速感が強まってくる可能性が高いと予想している。

